

令和4年度

福島学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生活規律や学習規律の定着
- 子どもが主体的に学ぶ楽しい授業・わかる授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
飯領田真理(4年)	荒木瞳(つくし) 富岡未来(つくし) 辻愛梨(つくし) 大川陽子(1年) 沖野蛍(2年) 齋藤邦宏(3年) 南部晴香(5年) 橘香織(6年) 片山景子(教務)

校長

藤島小百合

【小中連携または中高連携における共通の取組】

学習の仕方がわかる

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○既習事項の学習内容については、ある程度の定着がみられる。 ●基本的な学習規律が身につけておらず、漢字・計算が十分ではなく個別指導の必要な児童もおり、学習定着の差が大きい。	・基本的な生活規律や学習規律を身に付け、学年相当の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけている。	・基本的な生活の規律や学習習慣の定着を図るために「学習の構え10の約束」を全教職員が共通理解し、全学年で指導する。 ・朝の活動の時間・授業や宿題などで「阿波っ子タイムズ」の記事を読んだり、スクラップして感想などを書いたりするなど継続的に活用する。 ・整理整頓とされた環境作りを行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○思考力・判断力・表現力が高い児童が授業の内容を深めたり高めたりしている。 ●調べたことや考えたことを表現することを苦手と感じる児童がいる。	・課題に対して既習を生かしたり、根拠を明確にしたりして考えをもつことができる。 ・他者と話し合いを通して、考えを比較したり統合したりして、よりよい解や新しい考えをつくり、文章や発話によって表現することができる。 ・必要な情報を読み取ったり、目的や条件に応じて書いたりできる。	・課題や発問を工夫する。 ・ペア学習やグループ学習など学習形態を工夫したり、よい意見を紹介・共有する場を設定したりする。 ・授業の中で自分の考えやふり返りなど自分の思いや考えを表現する機会を多く取り入れる。(特に「書く」活動を中心)			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた学習課題や日々の宿題に真面目に取り組む児童が多い。 ●間違いや失敗をおそれ、あきらめたり消極的になったりしてしまう児童がいる。	・わかる楽しさや喜びを感じ、進んで粘り強く学習に取り組むことができる。	・児童の学習状況を教職員間で情報共有し、意欲や過程に対してポジティブな声かけをする。 ・興味・関心をもてるような授業作りをする。 ・ねらいを明確にし、ねらいに対する自分の学びを振り返ることができるようにする。 ・「家庭学習の手引き」を発行し、保護者と連携を図る。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

